ハウス食品グループ本社株式会社 様

品質保証統括部 品質企画課
課長 福井周二 氏

品質保証統括部 品質情報統括課
課長 有馬大輔 氏

品質保証統括部 品質企画課
福元正史 氏

「リスク対応力」のさらなる強化には、リスク情報を扱う仕組みの変革が必要でした。ハウス食品グループの品質リスク対応力アップに、Algolynx Business Sphereが欠かせません。

ハウス食品グループ本社が、なぜAlgolynx Business Sphere（アルゴリンクスビジネススフィア）のような食品業界に特化した情報収集クラウドサービスを必要としたのか。

品質保証統括部 品質企画課 課長 福井周二氏に詳しく聞いた。

ハウス食品グループの概要

ハウス食品グループの前身であるハウス食品は、1913 年に創業した食品メーカーです。消費者の皆様には、「バーモントカレー」、「北海道シチュー」、「とんがりコーン」、「フルーチェ」などの商品で親しまれています。2013 年に持株会社体制に移行し、現在では、グループ連結で、従業員数は 6,273 名 （2018 年 3 月 31 日現在）、年商は 2,913 億円（2018 年 3 期実績）です。

ハウス食品グループでは、Business Sphereを「食品に関する品質リスク

■ イントロダクション

— ハウス食品グループでは、Business Sphere をどう活用されていますか。

Business Sphere を「食品に関する品質リスク情報を収集するツールおよびリスク評価結果のデータベース」として、2017 年 5 月から活用を始め、現在では約 100 人が利用しております。

Business Sphere の活用の効果は、5 つあります。

1. 行政機関の情報の抜け漏れが無くなった
2. 効率的に品質リスク情報を収集できるようになった
3. データベースへの入力フォームが決まっており、情報共有だけでなくリスク評価および対応内容まで確実に保持することができるようになった
4. 品質リスク情報とリスク評価結果をデータベース化し、検索性が高まった
5. 品質リスク情報やリスク評価結果がデータベース化され、最新の情報が見えるのはもちろん、過去の経緯も簡単に確認できるようになり、情報に対する理解度が深まった

■ 導入の背景

— なぜ Business Sphere のような情報収集クラウドサービスを必要としたのでしょうか。

Business Sphere の導入のねらいは、「品質リスク対応力を強化」するためです。Business Sphere 導入前は自社独自で品質リスク情報の収集・評価・管理を行っていましたが、世の中の食の安全に対する関心の高まりに対応する必要があり、品質リスク情報を扱う仕組みの変革が必要でした。

— 自社独自の「品質リスク情報の収集・評価・管理」とはどのような運営でしょうか。

2001 年頃まで遡りますが、当時、日本で未承認の遺伝子組換えジャガイモが弊社製品に混入し、製品回収を行いました。当該事案に対する社内レビューにおいて、「事前に気づけること、対応できたことがあった」という声があがりました。例えば、「アメリカでは遺伝子組換えのジャガイモが承認されていた」、「厚生労働省ではこの遺伝子組換えジャガイモの健康影響評価に着手していた」などです。このような情報を把握していれば、事前に何かしらの手を打つことができ、リスクを回避することができました。そこで、「品質リスク情報の収集」

品質保証統括部　品質企画課
課長
福井周二 氏

と「品質リスクを評価」する活動を強化する目的で、「品質情報リスクマネジメント会議（当時は、「予兆情報ミーティング」）」が発足しました。

— 「品質情報リスクマネジメント会議」とはどのような会議体でしょうか。

国内外の行政情報、研究・学術情報、食品安全情報を集約し、その情報の持つ品質リスクについてハウス食品グループへの影響評価を行い、評価内容に応じて担当組織に対応を指示し、この会議体で進捗を確認、共有しています。

参加メンバーは、当初、ハウス食品の品質保証部門だけで行っていましたが、異なる視点でリスク評価ができるように参加部門を拡大し、現在では資材部門、研究部門、CSR 部門、広報・IR 部門の他、グループ会社の品質保証部門の方も入っています。会議は、毎月1回、各事業会社・部門から約 20 人のメンバーが、TV 会議システムを使用して実施しています。品質リスク情報やリスク評価結果のメール配信だけのメンバーも含めると、約 100 人のメンバーが参画しています。

— 会議の効果はいかがでしょうか。

2002 年にこの会議体が発足しておりますが、品質リスクが国内で大きく問題視される前に、事前に対応ができた事案もあり、当該会議の有効性を実感しております。その結果、16 年間に渡り今日まで続いています。

例えば、過去にトランス脂肪酸のリスクについて一部の研究機関から情報が発信されました。このときも早くから情報を掴み、関連協会・団体への相談や資材メーカー様と協働で低減のための取り組みを進め、大きく問題視されるようになった時には、すでに当社では対応が進んでおりました。

海外情報が国内に到達するスピードが速くなり、品質リスク評価とその後の対応は、よりスピードアップが必要な状況になってきています。

— さきほど「Business Sphere を導入したのは、品質リスク対応力の強化」が目的ということをお聞きしましたが、どのようにリスク情報の収集・評価をされていたのでしょうか。

リスク情報の収集は、人頼みで、力技で行っておりました。具体的には、国内の情報、海外の情報と情報源ごとに担当者を決めて、情報収集を行っていましたが、担当者は他の業務もありますので掛け持ちでの情報収集となり抜け漏れが危惧されました。

品質リスク情報にはお客様への伝達の「距離感」があり、例えば研究・学術情報は「お客様に情報が到達するまでには時間を要す」、一方で、国内の行政情報は、「すぐにお客様に情報が到達する」ことになるので、特に行政機関の情報は抜け漏れがないように、事務局は行政機関の開催する委員会・審議会などを傍聴したり、関連機関の WEB サイトを確認したり、一通り情報確認を行っておりました。

リスク評価は、「品質情報リスクマネジメント会議」で影響の大きさや緊急性によって対応の扱いスピードを決めております。

— 収集した情報や議事録は、どのように発信・共有していたのでしょうか。

議事録は、Excel のフォームに、品質リスク情報、リスク評価結果（影響度と対応の必要性）などを整理していました。この Excel の議事録を、社内メールに添付して、メンバーに発信・共有していました。

ただ、Excel では、「あれってどうなった?」、「この化学物質は大丈夫?」といった関心事が発生した場合に、会議の開催年月にあたりをつけてから、その Excel を調べるという、効率が悪い調べ方をしていました。

最近では海外情報の日本に到達するスピードが上がってきており、海外情報を受けた日本の行政の動きも早くなっています。ですから、これまでより対応のスピードアップが必要な状況になってきています。

情報の収集およびリスク評価結果のデータベース」として、活用しています。

■ Business Sphere 選定のポイント

― アルゴリンクス以外に比較はしませんでしたか。

最初にアルゴリンクス様とお会いした際に「こんなことをやりたい」とお話したところ、積極的にご提案いただきました。こちらの要望だけではなく、「品質情報マネジメント会議の運営自体をシステム化したらどうか」というご提案もいただきまして、「品質リスクへの対応力の向上、会議運営の効率化ができる」と思い、それでアルゴリンクス様と一緒に進めることになりました。

― 社内でシステム開発しようといった話はなかったのでしょうか。

元々はデータベースそのものを、既存システム上に作ろうといった話がありました。しかしアルゴリンクス様の提案は、

1. 食品業界のニュースをデータベースに直接繋げることができる
2. データの運用周りも丸ごと包含する

という魅力的な内容でした。

最初にお話をしたのが 2016 年 10 月で、12 月には我々の要望を取り入れていただいたパイロット版を提供いただきました。その後もブラッシュアップいただきまして、2017 年 5 月には、運用を開始しました。

―「1. 食品業界のニュースをデータベースに直接繋げることができる」とのことですが、具体的にどのようなことができるのでしょうか。

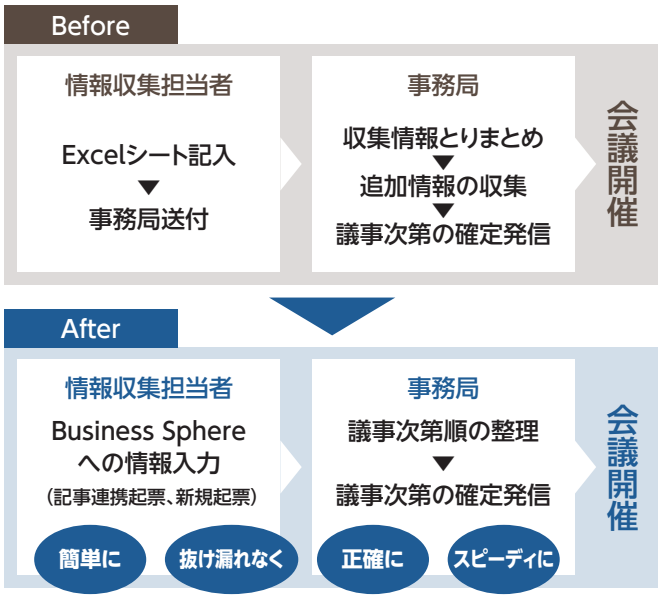
「ニュースサーチ」という情報収集の機能です。Web 上の食品業界に関係する情報の中から、ハウス食品グループが必要とする情報を「ニュースサーチ」の中に取り込み、さらにリスク評価が必要な情報はワンクリックするだけでデータベースに取り込めるといった機能です。これは使ってみると非常に便利な機能です。

先ほど、「行政機関の情報だけは絶対抜け漏れがないようにしたい」というお話をしました。これまでは各行政機関、協会、団体のサイトを個々に調べていましたが、「ニュースサーチ」に行政機関の情報だけが集まるカテゴリを作り、ここだけを見れば、国内の行政情報は漏れなく確認できるようになりました。

―「2. データの運用周りも丸ごと包含する」とのことですが、具体的にはどのようなことでしょうか。

導入前は、各情報収集担当者が Excel シートに情報を記入し、事務局に送付していました。事務局では、各担当者から受け取った Excel を、議事次第として、1 つの Excel にまとめます。さらに、不足情報があれば追加するという作業をしていました。導入後は、各担当者には Business Sphere に登録してもらえますし、その情報源がわかるので、新たに調べることもなくなりました。

また導入前までは、議事次第に追加があると、Excel の更新版を送っていました。しかし、参加メンバーが更新版を見ているか、以前送ったのを見ているかは確かめることができません。ですが、Business Sphere であれば常に最新の情報で、しかも議事の優先順位順に表示されるので、議事の進行にもついていけます。ですから、「あれっ、この情報がない!」といったようなことはなくなりました。



■ 社内での Business Sphere の評価

― Excel から Business Sphere に移行したわけですが、定着するまでに時間はかかりませんでしたか。

新システム利用の定着には心配がありましたので、会議の中で時間を取り、説明を繰り返し、運用を開始しました。

アルゴリンクス様にも大変な協力いただき、わかりやすいマニュアル（手順書）を整備することができました。また、色々な利用場面を想定して、細かい手順書を10種類ほど準備し、メンバーに配布しました。
Business Sphere は機能が情報収集・情報管理と分かれていて、また私たちが使用している言葉を使ってアイコン、ボタンが構成されており、わかりやすいシステムですのですぐ定着したと思います。

運用を開始した 2017 年 5 月からしばらくは、Excel と Business Sphere と平行運用していました。使える人は Business Sphere を使い、使えない人は Excel のままで情報提供していただき、議事録の発信も以前の通り Excel で送っていました。

Business Sphereは難しいシステムではなく、わかりやすいシステムなのですぐ定着しました。常に最新の情報で、使い易く、管理スピードが非常に上がりました。

2017年9月からはBusiness Sphereのみの利用とし、Excelは止めました。会議のときも Business Sphere の画面を利用しています。会議メンバーからの評判が良く、見やすいという声も聞いています。

Business Sphereの本日の議事内容には、議事の優先順位1番から表示されます。会議の際に議事をクリックして、内容を共有していきます。またリスク評価をした結果を、議事の隣の項目に残していくという運用をしています。会議メンバーは、これが見やすいと評価しています。

■ ハウス食品グループが得た最大の効果とは?

— Business Sphereを導入して、どのような効果があったでしょうか。

品質情報リスクマネジメント会議で一番重要なことは、「品質リスクの評価」です。品質リスクを評価するために、グループ内の情報が必要となりますが、会議運用の効率化が図れたため、会議前に情報収集ができ、その結果より現場の実態に即したリスク評価及び対応内容となるよう、深く議論できるようになりました。これは想定以上に大きな効果です。

また、会議後の品質リスク情報及びリスク評価結果の共有や検索が効率的にできるようになり、品質リスクに関する関心事が出た場合には、利用者全員が過去の情報やリスク評価結果を確認でき、情報の経緯を迅速に把握できるようになりました。

■ 今後の活用方法

— ハウス食品グループは、今後どのようにBusiness Sphereを活用していく予定でしょうか

ハウス食品グループの事業会社が増え、事業領域が拡大しています。今までは製造の領域の情報だけで良かったのが、上流側では原材料の栽培・加工事業、下流側ではレストランなどの外食事業に関する情報が必要になります。
事業領域の拡大に対応できるように、品質リスク情報の範囲を広げ、品質リスクへの対応力を強化していこうと考えています。

■ Business Sphereへの期待

— アルゴリンクス／Business Sphereへの今後の期待をお聞かせください。

今後の期待として3点あります。

1点目は、我々の関心が高い情報のピックアップ精度の向上です。先ほど「事務局は抜け漏れがないように情報を見ている」というお話をしましたが、「ハウス食品グループが関心を持つ情報はどのような情報か」を、例えばAIを使い情報収集精度が高めることができたら、もっと私達の業務は楽になると思います。

「品質情報リスクマネジメント会議」の様子

2点目は、関連情報のつながりの見える化です。我々が収集する情報はピンポイントの情報です。「過去どういう経緯を辿って今にあるのか」、「将来どういう方向に進んでいくのか」という時系列のつながりがわかると、リスク評価や今後の対応の決定に役立ちます。
※新機能 Insight DB をリリース(2018年12月)。

3点目は、海外法規制情報の充実です。弊社内では海外法規制の情報の収集ツールとしても期待しています。特に東南アジアの法規制の内容や、改正内容がわかれば法規制に対する対応をスムーズに進めることができます。
※新機能 Regulation Search をリリース(2018年12月)。

ハウス食品グループとして、世の中の情報伝達のスピードが益々速くなっている中で、今後一段と品質リスク対応の力を高めていくために、アルゴリンクス／Business Sphereの引き続きの機能強化を期待しています。

Algolynx
News and Insights for you

アルゴリンクス株式会社

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-4-11 パシフィックスクエア九段南ビル 3F

Tel. 03-4405-8790　Fax. 03-4405-8791

URL https://www.algolynx.com

※本カタログに記載されている社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
※本カタログの著作物の無断での複製、転載を禁じます。

2019.1